

令和5年度 久佐まちづくりセンターの主な取組

事業名

みんなの居場所づくり～『こどもあそびDAY』～

P

●事業実施に至った背景、目的

「老朽化でプールが使えなくなり、夏休みの子どもの遊び場がない」という保護者の声があった。
①子どもも保護者も安心できる居場所をつくること（見守り）②楽しめる遊びや活動すること（思い出作り）を目的に、『こどもあそびDAY！』を企画。まちづくり振興会にも相談し、子どもも含めみんなの声を聞き、まちづくりセンターの機能を一層充実させるためと全戸に「集いの場」についてアンケートを実施。結果からまずは希望の多かった遊具を購入し、夏休み期間中自由に利用可能とした。子どもたちの遊び場・居場所になることを目的とした。

●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

- ・ふるさと遊楽校会議①5月23日、②6月12日 ・6月15日「集いの場」アンケート実施
- ・7月26日まちづくり振興会と打合せ、遊具購入 ・10月中旬冬休みこどもあそびDAY企画

D

●事業の概要

- ①8月3日 こどもあそびDAY①～ストーンペイントであ・そ・ぼ！～
★石拾い→休憩もぐもぐタイム→ストーンペイント→記念撮影→自由遊び
- ②8月22日 こどもあそびDAY②～手形アートであ・そ・ぼ！&みんなでランチを作ろう～
★ランチづくり→ランチタイム→手形アート→記念撮影→自由遊び
- ③12月26日 冬休みこどもあそびDAY③～スノードーム作り&ケーキをデコろう！～
★スノードームづくり→ケーキデコレーション→もぐもぐタイム→記念撮影→自由遊び

C

●事業実施後の振り返り

この事業をきっかけに、夏休み中子ども達が沢山センターを訪れ利用してくれた。保護者から「今年の夏休みは子供達にとって大きく変わった期間だったと感謝」「まちセンを利用させてもらい親としても安心して仕事できた」「子供達が友達と一緒に楽しく充実した時間を過ごせた」など、とても嬉しい言葉を頂いた。センターが子ども達の居場所の1つとなり、親子共に安心できる場所になって良かった。

A

●令和6年度以降の方向性

保護者の声を聞かせてもらい、この企画が出来た。話し合うこと、意見を出してもらうことがとても大切だと思う。引き続き話し合いの場を設けると共に、意見を言いやすい環境・関係性を築いていくことが重要である。継続・定着していくだけではなく、住民の意見を取り入れ、柔軟に対応し、進化させながら、課題や問題を解決していけるように、まちづくり振興会と協力して行っていく。



ストーンペイントであそぼ



ランチづくり&てがたアート



スノードームづくり&

